

令和2年度学校だより

横浜市立緑園西小学校発行



緑園西

泉区緑園3丁目39番地

Tel (811) 6030

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuennishi/>

「ピンクシャツデー」

学校長 立田 順一

横浜港に入港した大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の船内で、乗客が新型コロナウイルスに集団感染していることが明らかになったのは、昨年2月3日のことでした。あれから1年が経ちますが、依然としてその感染には収束の目途が立っていません。私たちの身近なところで、感染をした方や、濃厚接触者になった方が確認されることも珍しくなくなってきました。また、感染ルートが特定しきれないケースも増加しており、どれだけ予防に努めても、感染のリスクをゼロにすることは困難だといえます。もちろん、これまでと同様、あるいはそれ以上に感染の予防を図っていく必要がありますが、その一方で「誰が感染しても不思議ではない」という状況であることについて理解をしていく必要もあると思います。

さて、横浜市立の学校では、毎年2月に「ピンクシャツデー」という取組を行います。これは、2007年にカナダで始まった「いじめ」をなくすための運動が元になっています。

この運動の発端となったカナダの高校では、この年のある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が、「男なのにピンクのシャツを着ていて変だ」と、いじめにあってしまいました。そのことを聞いた上級生の2人は、「いじめなんて、もう、うんざりだ!」「何かアクションを起こそう!」と考えました。その末に思いついたアイデアが、75枚のピンクのシャツを購入し、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけることでした。翌朝、校門の前でシャツを配ろうとした2人は、思いがけない光景を目にします。それは、2人の呼びかけに賛同した数百名の生徒が、ピンクのシャツや小物を身に付けて次々に登校してくる姿でした。その日、学校中がピンク色に染まり、いじめも自然になくなったのだということです。

このエピソードがSNSなどを通じて世界中に広まり、今では日本を含めた180の国や地域で関連した取組が行われています。また、カナダでこの出来事があった日が2月の最終水曜日だったことから、それ以降、2月の最終水曜日は、いじめについて考える1日となっています。

冒頭のコロナ禍のことに話を戻しますと、大変残念なことに、このところのニュースでは感染者やそのご家族、また、医療従事者に対する誹謗中傷や差別が行われているということを見聞きします。今こそ、カナダの高校生たちと同じように、私たち一人ひとりが「他者の立場、気持ち、痛みなどに対する想像力」を発揮し、行動をする必要があるのではないのでしょうか。